

オープン カレッジ

「男女雇用機会均等法」が施行され33年が経過し、女性の年齢階級別労働力率のM字型は台形へと解消されつつある。こうした変化を身近に感じるだろうか。

例えば愛知県の女性労働力率は52%と、全国平均50%と変わりはない。しかし都道府県別では女性の労働力率が最も高い福井県(54%)から、最も低い奈良県(44%)と現状は多様である。

25〜44歳の子育て世代に限定すると、島根県、山形

男女平等で公正な職場へ

には、ワークライフバランスの満足度や、性別役割分業意識に差はあるのだろうか。

こうした疑問から、昨年4〜9月にかけて、両県で働く女性およそ300人に對して、労働組合を通じてアンケート調査を実施した。福井、奈良に事業所がある同一企業のグループ子会社と、企業は異なるが同一産業(小売業)で働く女性たちが対象である。

奈良で働く女性は、「現在の仕事」と「家庭生活」に対する満足度が、福井で働く女性より有意に低い結果となった。仕事にどのような価値を感じているのか、仕事をする意味に生活圏では母親は子育てのために仕事を辞めることが「当たり前」であるが、女性自身はよりジェンダー平等な意識で生活している。こうした地域とのギャップが生きてくさにつながら、仕事や生活全般の満足度を上げないのではないかと想像する。

女性雇用の

地域間格差

県に次いで福井県(85%)は労働力率が高く、奈良県(71%)との差は14ポイントもある。

就業状況がこれほど異なる地域で働く女性たちの間



福山女学園大学
人間関係学部教授

小倉 祥子

ついて、「職業観価値尺度」を作成し主成分分析を行った結果、5要因が抽出された。このうち福井で働く女性は、奈良で働く女性よりも、「雇用の安定」「男女平等」「良好な人間関係」を意識し、価値をおいて働いていることが示された。

さらには性別だけでなく、雇用形態、職務内容および労働時間に違いがあったとしても、従業員の満足度を高めながら働く意欲を高める

業意識については、両地域間で有意な差は見られなかった。例えば、「男は仕事・女は家庭」といった男性が働きモデルを支持しない割合に差はなく、また女性の構築が望まれる。

おべら・しょうご 社会政策、
女性労働問題。日本女子大学
院人間生活学研究科修了。博士
(学術)。